

日本科学者会議福井支部例会

頻発する震災！ 県内、ひずみ集中帯に

講師 **岡本拓夫** 福井高専教授

とき **1月28日(日)**
午前10時～

ところ **福井市
教育センター 3階**
福井市大手2丁目22-28
電話：0776-23-1887

参加費無料 **zoom** で参加の方は、
●ミーティング ID: 811 9353 4319
●パスコード: 259492

プロフィール

1959年大津市生まれ。京都大大学院地球物理学専攻の博士後期課程中退。大学院の教授が所長を務めていた京都大防災研究所北陸微小地震観測所（鯖江市）で地震活動解析に取り組んで以降、北陸で地震を研究してきました。1986年に福井高専で講師となり2007年から教授。福井県防災士会理事長。藤島高校と武生高校で研究アドバイザーも務めています。

最大震度7の能登半島地震で、多くの家屋が倒壊し、わずか数分後に4メートルの津波が沿岸部を襲った石川県珠洲市では、10日以上経過した現在も被害の全容は、明らかになっていません。

福井県は、「新潟—神戸ひずみ集中帯」と「西南日本内帯」に含まれ、東西から押されて地殻のひずみが蓄積していると、岡本拓夫氏はいいます。長年、福井で地震の研究をされてきた、岡本氏のお話しをお聞きください。

◆日本科学者会議福井支部 連絡先：山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com（携帯 090-4323-4199）

カンパのお願い：郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部 支部 HP：<https://jsafukui.net/>

（2024年1月発行）

頻発する震災

福井地震 75 年 識者に聞く

(中)

福井県は地震が起りやすいエリアに入っているのか。地震学専門で県防災士会理事長を務める福井高専の岡本拓夫嘱託教授(64)は「大きな地震が多く近年注目されている『新潟―神戸ひずみ集中帯』と、過去の南海トラフ地震の前後に地震が多発した『西南日本内帯』の両方に福井県は含まれる」と指摘する。地震活動域の中でも、近年の発生が少ない県内の「空白域」

「福井平野の西側や、(西山公園を中心とする鯖江台地東側を南北に走る)鯖江断層、敦賀断層の周辺。有力な断層

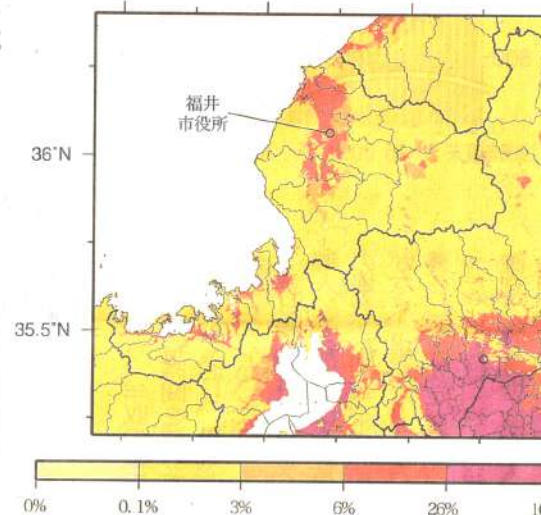
があるにもかかわらず近年、地震活動がない」

政府の「全国地震動予測地図2020年版を見ると、

福井市は今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が14・5%、6強以上が2・3%とされている。どうみ

るか。『それなりの確率ではないか。震度5強以上の確率は54・9%。南海トラフ巨大地震が近く起こるとされている限り、震度5弱以上はほぼ確実に来る』

地震活動の空白域注視



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率(出典「全国地震動予測地図2020年版」地震調査研究推進本部)

県内、ひずみ集中帯に

を特に注視している。

(聞き手・構成 嶋本祥之)

―2020年9月4日に発生した地震では坂井市春江町で震度5弱を観測した。県内での震度5以上は、1963年3月に敦賀市で震度5を観測した若狭湾を震源とする越前沖地震以来。

「断層があるが近年地震が起きていない場所を、地震活動の『空白域』とみて注視し

岡本拓夫
福井高専嘱託教授



県内の地震について語る岡本拓夫嘱託教授(7日、鯖江市の福井高専)

おかもと・たかお 1959年大津市生まれ。京都大学大学院地球物理学専攻の博士後期課程中退。大学院の教授が所長を務めていた京都大防災研究所北陸微小地震観測所(鯖江市)で地震活動解析に取り組んで以降、北陸で地震を研究。86年に福井高専で講師となり2007年から教授。県防災士会理事長。藤島高と武生高で研究アドバイザーも務める。

「新潟から神戸にかけの帯状のエリア『新潟―神戸ひずみ集中帯』では、大きな内陸地震(直下型地震)が頻発している。福井地震(1948年)、兵庫県南部地震(阪神大震災、95年)、新潟県中越地震(2004年)、中越沖地震(07年)がそうだ。この集中帯は東西から押されて地殻のひずみの蓄積速度が速いとされている」

「福井は西南日本内帯にも含まれる。南海トラフでは、必要ない。『地震はいつ発生してもおかしくない。対岸の火事と思っ

「日本全体で福井県を見た場合、特徴は。『新潟から神戸にかけの帯状のエリア『新潟―神戸ひずみ集中帯』では、大きな内陸地震(直下型地震)が頻発している。福井地震(1948年)、兵庫県南部地震(阪神大震災、95年)、新潟県中越地震(2004年)、中越沖地震(07年)がそうだ。この集中帯は東西から押されて地殻のひずみの蓄積速度が速いとされている」

「必要ない。『地震はいつ発生してもおかしくない。対岸の火事と思っ